論理国語　単元指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇〇日（〇） | 場所 | ３年○組教室 |
| クラス | ３年〇組（〇〇人） | 授業者 | ○○　○○ |
| 科目名 | 論理国語 | 単元名 | 「書く」―問いを生む |
| 使用教材 | 「『書く』ことへの挑戦―問いを生む」 | 使用教科書 | 探求　論理国語（桐原書店） |
| 教材観 | 本教材は、「書く」ことのあり方に焦点をあて、現代社会で無数にあふれる情報をもとに自分の意見を論じる、というものである。自分の意見を論じるにあたっては、対象を「読む」ことで得たものをもとに新たな「問いを生む」ことが重要であることを理解させたい。これは、「問いを生む」ことは小論文やレポートなど、論理的な文章、学術的な文章を書くうえではじめの一歩であり、同時に内容の善し悪しを決定的に左右する重要な要素となるからである。 |
| 生徒観 | 文系クラスである。男女隔てなく仲が良く全体的に落ち着いており、授業にも真面目に取り組んでいる。一方で、学習に自信のない生徒が多く自分の意見や考えを表現することには消極的で授業でも受け身になりやすい。 |
| 指導観 | 本教材では意見文を書くことを最終的な目標として設定しているが、成果物の評価よりもその過程を重視した授業を目標としている。批判的思考力をもって、意見の根拠となる事実やその題材の背景を見ることで、今まで見えていなかった「疑問」や「問い」をうみ、より洗練された意見文を書き上げることをゴールとしたい。 |

１　単元の目標

1. 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

〔知識及び技能〕(２)ア

1. 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)エ
2. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の言語活動

設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)エ）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①　主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) | ①　多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。　　　　　　（A（1）エ） | 1. 意見文を書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。
 |

４　指導と評価の計画（全５時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １ | 〇単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。〇価値ある情報発信の必要性を理解する。〇対象を「読む」過程について理解する。 | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ２ | 〇テーマについての要素を挙げ、グループで確認する。〇確認した要素を参考に意見文を書く。（300～600字） | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の点検」 |
| ３（本時） | 〇グループ内での交流し、それぞれの意見文に不足している要素をまとめる。 | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の点検」 |
| ４ | 〇グループ内での相互評価を基に文章を推敲する。（800字程度） | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の点検」 |
| ５ | 〇グループ内で完成した意見文を相互評価する。〇単元の振り返りを通して自らの学習を省察する。 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の分析」 |

【単元の流れ】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １ | 〇単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。〇「世界の見方を変える」の内容を振り返り、価値ある情報発信の必要性を理解する。〇教科書の例をもとに、対象を「読む」過程について理解する。 | ・ペア活動で本文の内容を確認しながら、内容を確認する。・教科書の例を参考に意見文を書くこと、自らテーマ設定をすることを意識付けする。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノートワークシート・記載内容を点検する。 |
| 2 | 〇「コロナ後の学校現場でのオンラインの活用」についての「自分の意見」「意見の根拠となる事実」「その事実に関する背景」を書き出す。（ワークシート１ページ目）〇書き出した内容を参考に意見文を書く。 | ・メタモジのワークシートに3つの要素について書き出す。・300字以上、600字以内の原稿用紙を用意し、書かせる。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の点検」メタモジ　　　　　　　原稿用紙・記載内容を点検する。 |
| ３本時 | 〇メタモジに書かれた3つの要素を参考に意見文を読み、グループ内でそれぞれの疑問点を挙げたり指摘をしたりする。（ワークシート１ページ目）〇他者からの評価を参考に話し合ったり、疑問を解決するための資料を探したりする。 | ・読む際に疑問に思ったことがあれば、評価対象者のメタモジ上に記入する。・話し合ったり調べたりして分かったことはメタモジ上に付け足す。（ワークシート４～６ページ目） | 〔思考・判断・表現〕①「記述の点検」メタモジ　　　　　　　原稿用紙・記載内容を点検する。 |
| ４ | 〇前時の評価や調べて分かったことを参考にして、意見文を書き直す。〇自己評価を行う。（ワークシート９ページ目） | ・事実に関する記述が多くなる可能性があるため、原稿用紙は800字程度のものを用意しておく。・1回目に書いた意見文からどのような気付きがあり、どのように書き直したのかを記述するよう指導する。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の点検」メタモジ・記載内容を点検する。 |
| ５ | 〇作成した意見文をグループに分かれて相互評価する。（ワークシート９・１０ページ目）〇単元の振り返りを通して自らの学習を省察する。（ワークシート11ページ目） | ・メタモジのワークシートに沿って記入する。・多面的・多角的にテーマを考えることで新たな問いが生まれ、それを考察していくことでより深い内容の意見文になることに気付かせる。 | 〔思考・判断・表現〕①〔主体的に学習に取り組む態度〕①「記述の分析」メタモジ　　　　　　振り返りシート・振り返りシートなどの内容から、本単元を通して生徒が学んだことを分析する。 |

≪本授業における評価の実際≫

５　観点別学習状況の評価の進め方

　「論理国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「A書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)アに「50～60単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「A書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1)［知識・技能］の評価

[知識・技能]①の「主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている」状況を、ワークシートにおいて「テーマに関する事実確認や様々な意見の問題点、社会への影響等を調べている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述を点検して評価する。

ワークシートに記述できていない状況をCと捉え、教科書の例示や周りの生徒からの助言を受けるよう促す。

(2)［思考・判断・表現］の評価

[思考・判断・表現]①の「多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている」状況を、推敲後の意見文において、「グループで調べた内容を共有したり、他の生徒の助言等を踏まえて意見文を作成している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、意見文の記述を分析し評価する。

意見文を書くことができていない状況をCと捉え、ワークシートにまとめた内容を踏まえて書くように促す。

(3)［主体的に学習に取り組む態度］の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「意見文を書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「意見文の論述を通して理解した知識や技能を活用して論述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、意見文の内容、振り返りシートの記述、自己評価を分析し評価する。

本単元を基に多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりできていない状況をCと捉え、ワークシートにまとめた内容を踏まえて書くように促す。

６　学習指導案(３時間目/全５時間)

本時の目標：ア　多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にできる。〔思考力・判断力・表現力等〕（A（1）エ）

　言語活動：グループで意見文を評価し合い、それをもとに意見文を推敲する。

本時の展開：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入５分 | ・前時の内容と本時の見通しを確認する。 | ・前時に記述した意見文をあえて批判的に読み合うことでより良い文章にしていく工程を学ぶことを確認する。 | ・「自分の意見」「意見の根拠となる事実」「その事実に関する背景」の3つの要素を軸に考えていくことを伝え、読む視点がばらつかないように指示する。 |
| 展開①２５分 | ・グループ内で意見文を読み合う。・グループ内で交流する。 | ・４人１組のグループに分かれ、メタモジに書かれた3つの要素を参考に意見文を読む。・評価者は「自分の意見」「意見の根拠となる事実」「その事実に関する背景」について疑問点や指摘があれば、メタモジ上のワークシートに書き込む。（ワークシート１ページ目）・相互評価の指摘等で分からないことがあれば質問する。 | ・メタモジ上にワークシートを配布する。・意見文は作文用紙そのものを回覧することで確認させ、疑問点等の書き込みはそれぞれのタブレットで行う。（写真を貼ることでメタモジの動作が重くなるのを避けるため。）・あえて「批判的」視点で読み指摘することが、推敲の成功につながることを確認する。・特に「事実」や「背景」に関して、意見文内で書かれているものと反する「事実」や「背景」を知っていたり、間違った情報があったりした場合は指摘する。 |
| 展開②１５分 | ・グループ交流の内容をもとに新たに調べたり、まとめ直したりする。 | ・指摘から生まれた新たな問いに対する事実を調べて、メタモジのワークシート上に書き込む。（ワークシート4～6ページ目）・調べた内容を踏まえて、どのような構成でどのような情報を使って意見文を書くか考える。 | ・情報の出典等に注意し、妥当性や客観性をもった事実を見つけることを指導する。【目標アに対する評価規準と評価方法】規準：他者からの疑問や指摘から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。方法：「記述の点検」（メタモジ、机間指導）〔目標ア達成のための手立て〕・見つけた事実が疑問や指摘に対する答えになっているか評価者に聞くなどして、深めさせる。 |
| まとめ５分 | □次時の予告 | ・次時は本時の内容をもとにもう一度意見文を書くことを確認する。 | ・意見文は学習後にデジタルで残せるよう写真を撮り、メタモジ上に貼らせる。（ワークシート２・３ページ目） |